

Title	2009 年度聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター年次報告書
Author(s)	聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター
Citation	2010 : 1-21
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=1942
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2009年度

聖学院大学
人間福祉スーパービジョンセンター
年次報告書

聖学院大学総合研究所

—はしがき—

聖学院大学人間福祉スーパービジョン制度は、2008年3月に本学卒業生を交えて発足会を開き、2008年度より本格活動をはじめた。スーパービジョンとは、熟練したソーシャルワーカーがスーパーバイザーとなって、経験の浅いソーシャルワーカー（スーパーバイジー）に対し、専門職としての能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、スーパーバイザーが困難状況や事例に関する不安や戸惑いを持つ現場のソーシャルワーカーに耳を傾け、受容し、必要であれば、助言を提供するものである。

聖学院大学では、2008年度から、スーパービジョンセンターを正式に発足させ、本学人間福祉学科卒業生を含め、広く福祉実践に従事する関係者を対象にスーパービジョンの機会を提供することとした。

2009年度の報告書は人間福祉学科 助川征雄教授が中心になってまとめたものである。本報告書が、現場にあるソーシャルワーカーや、ソーシャルワーク教育に当たる教員の方々に何らかの有効な示唆となるのであれば、センターの関係者一同の心からの喜びとするところである。

聖学院大学人間福祉学部長
人間福祉スーパービジョンセンター長
中村磐男

目 次

1	事業概要	
1)	目的	2
2)	実施体制	2
3)	報告書様式	3
2	事業実績	
1)	スーパービジョンセンター委員会	4
2)	スーパービジョン事業	
(1)	グループ・スーパービジョン	6
(2)	個別スーパービジョン	6
(3)	スーパーバイザー支援制度	7
(4)	ピア・スーパービジョン	7
	講演「スーパービジョンとは何か」 柏木 昭	8
	講演「スーパーバイザーの立場から」 田村綾子	12
	ピア・スーパービジョン アンケート結果	14
3)	その他の事業	
	パンフレット作成と広報事業など	17
4)	今後の課題	
	SVCの事業についての卒業生や関係者への広報の拡大など	17
3	予 算	18
4	決 算	18
5	資 料	19

1 事業概要

1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、バーンナウト、燃え尽きないための方法として、「スーパービジョン」がある。

スーパービジョンとは、スーパーバイザー（熟練したソーシャルワーカー*）が、スーパーバイジー（経験の浅いソーシャルワーカー）に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に関する不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

聖学院大学では、2008年度から、人間福祉学科卒業生や広く福祉実践に従事する関係者を対象にスーパービジョンの機会を提供することとした。

2) 実施体制

<プログラム>

○個別スーパービジョン

スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン（原則毎月1回程度）

○グループ・スーパービジョン

スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン（毎月1回）

○研修交流会 ピア・スーパービジョン（年1～2回開催）

広く、卒業生や関係者に対し、主としてスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会

○スーパーバイザー支援制度

すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

<場 所>

聖学院大学、新都心ビジネス交流プラザ、聖学院生涯学習センターなど

<担当者>

柏木 昭 聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授

助川征雄 聖学院大学人間福祉学科教授

相川章子 聖学院大学人間福祉学科准教授

廣江 仁 聖学院大学非常勤講師、日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

田村綾子 聖学院大学非常勤講師、日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

* 熟練したスーパーバイザーとは、（社）日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

3) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイジー氏名		(GSV 記入) 人	
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ()		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名)		
	② さいたま新都心交流プラザ4階 (北与野駅前)		
	③ 聖学院生涯学習センター (駒込駅近)		
	④ その他 ()		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額 (支払方法)	会計担当	事務担当

2 事業実績

1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会—2009年4月22日（水）

場所：3号館 3201 10：50～11：30

出席者：柏木 昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、山本俊明、鈴木典子（書記）

議 題：

- 1 2009年度各プログラムの体制について
- 2 社団法人日本精神保健福祉士協会に対し認定スーパーバイザーの派遣依頼について
- 3 第3回ピア・スーパービジョンについて
 - ・ 10月10日開催。SVC主導で実施（SWnet）と連携。場所・北与野。
 - ・ 柏木昭、田村綾子両氏による講演と部会および懇親会。
- 4 事業報告と規定について
- 5 人間福祉学研究「福祉のこころ」講演会について

第2回委員会—2009年7月15日（水）

場 所：3号館 3201室 11：00～12：00

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津信忠、助川征雄、山本俊明、鈴木典子（書記）

議 題：

（報告）

- 1 グループ・スーパービジョン 7/14開催
新規申込者：Kさん、Iさんから返信なし。
- 2 新規申込者
スーパーバイザー支援制度：Yさん
個別スーパービジョン：Uさん、Hさん→場合によっては助川に担当依頼
- 3 助川担当個別スーパービジョン 2名とも順調。
- 4 学外会場の確保
事務移転に伴い駒込の空き部屋があるかもしれないが、秋ごろまで様子を見たほうがよいであろう。

（協議）

- 1 ピア・スーパービジョン
日時 2009年10月10日（土）13：30～17：00（受付開始13：00）
会場 4号館4階会議室、司会 助川征雄、講演 柏木 昭、田村綾子先生
 - ・ 懇親会について（会場での懇親会は短時間の茶話会程度。二次会は有志により学外でおこなう）
 - ・ 会の案内について（卒業生には2ヶ月前に通知。7月中旬に発送）

＜プログラム＞

- 13：30～14：15 講演1「スーパービジョンとはなにか」 柏木先生
14：15～15：00 講演2「スーパーバイザーの立場から」 田村先生
15：10～16：10 グループ・ディスカッション
16：20～17：00 懇親会・報告
17：00～ 二次会（有志により外部会場で行う）

第3回委員会—2009年9月30日（水）

場 所：3号館 3201室 11：30～12：30

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、山本俊明、鈴木典子
（書記）

議 題：

（報告）

1 スーパービジョン

- ＜助川担当＞ Oさん Tさん
＜柏木担当＞ Uさん、Hさん、
＜田村先生担当＞ Iさん（場所は明治学院大学）

2 スーパーバイザー支援制度

- ＜柏木担当＞ Yさん

3 グループ・スーパービジョン

- ＜柏木担当、相川補助＞ Kさん、Iさんは出席していない。
・ 駒込会場の利用について
夕方以降の時間帯で部屋がとれるか確認する。→山本
田村先生担当のIさんも場所がないため田村先生の勤務先で行っている。

（協議）

1 ピア・スーパービジョン 10月10日（土）

- ・ 9/29 現在申込者は13名。在学生を入れると20名以上になる予定。
- ・ グループ・ディスカッション、懇親会（SWnet、Mさんらに任せる）

2 その他

- ・ 2010年2～3月頃、SWnetによって次のピア・スーパービジョンを行う予定が出てくるであろう。
- ・ 発足会関連通帳は相川が預かる。
- ・ 総合研究所紀要44号別冊「聖学院大学総合研究所活動報告」に人間福祉スーパービジョン・センターの報告が掲載された。
- ・ 今年度の活動報告作成は、助川が引き継ぐ。
- ・ SVセンターとして第1回～第3回ピアSVをまとめた活動報告書を作成する。第3回が終わったところで資料をまとめる。09年度予算¥150,000

- ・ 2010 年度計画・予算について

廣江、柏木両スーパーバイザー退職への対応→継続検討

2010 年度計画及び予算については基本的に今年度踏襲で行う。

第 4 回委員会—2009 年 12 月 16 日（水）

場 所：3 号館 3201 室 11：30～12：30

出席者：柏木 昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、山本俊明、鈴木典子（書記）

議 題：

（報告）

1 スーパービジョン実施状況

柏木、助川、田村各スーパーバイザーによる実施状況報告

（協議）

1 年次報告書の作成について（助川案提示）

＜報告書仕様＞

- ・ 予算内で、適当な冊子に印刷。
- ・ 「委員会」は「実施月日、議題、参加人数」を、また、「スーパービジョン事業」については、「実施月日、参加人数、主な内容（提出事例数も含む）」を一覧表にして提出する。「今後の課題」については直近の会議等で集約。

＜作業日程＞

- ・ 1 月 20 日までに分担原稿提出（→助川）。2 月上旬までに原案取りまとめの上、印刷発注。全体の取りまとめは助川（事務局）が担当。
- ・ 内容については各担当者が分担。

2) スーパービジョン事業

(1) グループ・スーパービジョン

実施回数：10 回 人数：2 人

場所：新都心ビジネス交流プラザ 4 階聖学院教室

担当：柏木 昭（補佐 相川章子）

(2) 個別スーパービジョン

＜柏木 昭＞

実施回数：各 4 回 人数：2 人

場所：聖学院大学 2 号館 2410 研究室

2 人とも精神科病院の P S W である。当初、事例検討を介して、スーパービジョンに取り組んでいくつもりであったが、何れも職場における人間関係ならびに業務をめぐる不都合や不満足感や不安定感を中心に、かかわりが展開している。なお、2 人とも本学卒業者ではないが、継続を希望している。

<助川征雄>

実施回数：各 8 回 人数：2 人

場所：聖学院大学 8 号館 8050 研究室

2 人は、特別養護老人ホームの中間管理者（SW）と在留外国人支援 NPO 法人の主催者である。利用者主体の介護や生活支援、個別事例への対応をめぐる、悩みやアドバイスを中心に実施している。2 人とも継続を希望している。

<田村綾子>

実施回数：3 回 人数：1 人

場所：明治学院大学内

(3) スーパーバイザー支援制度

<柏木 昭>

実施回数：3 回

人数：1 人

場所：2 号館 2410 研究室

(4) ピア・スーパービジョン

2009 年 10 月 10 日（土）13：30～16：45 聖学院大学 4 号館 4 階会議室

総合司会 室井美紀 SWnet 代表、聖学院大学人間福祉学科卒業生

講演司会 助川征雄 聖学院大学人間福祉学科教授

参加者数 32 名（卒業生：23、在校生：2 教職員：7）

ープログラムー

挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科長
スーパービジョン・センター委員会委員長

講演 「スーパービジョンとはなにか」
柏木 昭 聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授
スーパービジョン・センター顧問

講演 「スーパーバイザーの立場から」
田村綾子 社団法人日本精神保健福祉士協会常任理事・研修センター長
グループ・ディスカッション

挨拶 中村磐男 聖学院大学人間福祉学部長・スーパービジョンセンター長
懇親会

SWnet の企画による二次会（終了後学外会場にて）

スーパービジョンとは何か

柏木 昭

聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授

聖学院大学人間福祉スーパービジョン・センター顧問

はじめに

10月9日現在で参加者は合計20名。所属を見ると、福祉施設・機関が7名、病院・診療所等医療機関が10名、その他が3名となっています。それぞれの参加者は、地域に存在する施設や病院の職員で、基本的に、また共通してソーシャルワーカー（以下、SW）です。国家資格を持っている人もいない人も入っております。付け加えておきますが、国家資格となっている社会福祉士や精神保健福祉士はいずれも名称独占資格で、医師や看護師のような業務独占資格ではありません。後者は家庭の主婦になっていても、名実共に医師であり、看護師なのです。それに対して社会福祉士や精神保健福祉士はどうなのでしょう。有資格SWの場合は、いずれかの施設・機関に所属している人が仕事を辞めれば普通の人です。しかし、国家資格を持つSWであっても、持っていない人でも、ソーシャルワークの仕事につくことは出来る。つまりソーシャルワークを実践する人は、誰でも生涯、SWというアイデンティティ、（専門家としての自己同一性）を持っているはずですね。だからこそ、皆さんは今日、このピア・スーパービジョン（PSV）の会に来られたのでは、ないでしょうか。そういうわけで、私がここでソーシャルワークにおけるスーパービジョン（以下、SV）を語ることは、参加者すべての人たちに、理解が得られるものとなることを心から願っているのです。

ソーシャルワークという仕事

いろんな職業があるなかで、皆さんは、よくソーシャルワークという仕事を選ばれたと思います。何かものを仕入れる段取りを取って、それを別の企業や人々に対し、販売先を開発したりする会社員や、あるいは医師や看護師とか、またちょっと離れますが、交通関係に勤めて運転手や車掌など、それぞれの知識と技術を駆使して、サービスを提供するような職業と比べて、皆さんはすでにソーシャルワークは何か違う性質の職業だと気がついておられると思います。

ソーシャルワークという福祉援助技術の方法論は、もともと私の世代がアメリカから



柏木 昭講師と、熱心に聴く受講者

導入したもので、わが国の風土に合うのかどうか、ずいぶん論議が重ねられたものでした。たとえば、「受容」というソーシャルワーカーの態度としてのあり方は、アメリカ診断主義の論調でありましたし、「クライアント（CL）自己決定の原理」はアメリカという民主主義国の、カトリック教会のバイステック神父が提唱した概念です。父性的保護主義的、権威主義的な、また集団主義的な日本では、自己主張より目上の人や他の人がどう考えるかを先ず窺^{うかが}って、周りに合わせるといふ風潮が支配的です。受容や自己決定は日本人の間で、技術としても、また理念としても受け入れられるはずがないと考える文化の中に入ってきた福祉援助論なのです。しかし今日では私たちソーシャルワーカーの間では、これらを実践の中心的理念として、堅持したいと願うようになっているのです。

スーパービジョンの定義

企業の社員には、たいてい一定の社内教育としての研修課程を通して業務の質を担保しようとしします。その他にOJTといった現任訓練などがあって、上司や先輩が適宜、教えてくれたりします。この点については、ソーシャルワークも変わりはないのですが、そこには体系的なスーパービジョンの制度がなければならぬと思います。しかし、現実には施設内教育という形で、上司がスーパーバイザーになって、初任者や後輩を指導教育するソーシャルワークの施設・機関は、残念ながらあまりないのではないのでしょうか。援助技術の教科書にはその必要性が書いてあるのですが。

さてここであらためてスーパービジョンとは何か、定義を述べておきます。「スーパービジョンはスーパーバイザー（SVをするSW、以下SVR）とスーパーバイジー（SVを受けるSW、以下、SVE）の間で、定期的な頻度で一定期間、SVEのクライアントへのサービスについて検討する集中的な指導体制」ということになります。

特に私は、それをSVEのクライアントとの「かかわり」について、SVE自身の点検をSVRが支援する力動的過程と考えています。言い換えれば、SVEのなかに潜在する可能性を信頼して維持する関係であり過程であると考えています。それはクライアントの力量や事態の推移や、またSVEの実践内容について、一緒に検討することはあっても、指導することではないし、ましてSVEの力量について判定を下すことはありません。焦点はあくまでもSVEのクライアントとの「かかわり」に当てられます。SVRはそこではSVEに対して支持的な態度で臨み、終始傾聴に徹することが求められるのです。

ソーシャルワーカーの主体性と本学スーパービジョンセンター（SVC）

上に述べたように、SVといっても上司が指導をしてくれるなら、嫌も応もなくそれに従うことになってしまいますから、およそSV関係はなかなか成立困難なこと



ピア・スーパービジョン風景

はいうまでもありません。SVRとの間で、自分自身の考え方に基づいて、率直にSVEとして報告するというSVの関係を作り上げること自体が難しくなってしまうのです。普通、服従というのが上司との関係ですから、対等でSWを主体的存在として認めるSVの機能は果たされないのではないのでしょうか。

今や時代は移り変わって、福祉教育が盛んになり、福祉の大学や専門学校が私たちの想像をはるかに超えて増えてきています。こういう時代背景にあって、このたび相川准教授による周到な準備のもと、本学にSVCが創設されました。また、社団法人日本精神保健福祉士協会の常務理事であり、本学の非常勤講師でもある田村綾子先生をスーパーバイザーとして助力をお願いしました。関係する教職員は力を合わせて、卒業生に限らず、本学周辺のソーシャルワークの人材に向け、その主体性を尊重し、SWとしての資質を育てる一助としようとする本学におけるSVCの企ては、きわめて有意義なものであると思います。

ソーシャルワーカーの自己点検

さて、すでに述べたように、何か質の高い製品や、技術を扱ってサービスを提供するのとは異なり、SWは自分の人柄と、そこからにじみ出てくる受容的態度を使って、直接人と向かい合い、相手との間に積極的肯定的（好意的）なかかわりを創り出していかなければならない職業です。

SWはCLに対して、受容的な態度で接し、たとえば、クライアントに「さあ、退院だからこうして」とか「ああして」といった指示的な構えは取らないことは、いまさら繰り返すまでもありません。

もっぱらクライアントの退院にかかる不安を受け入れる姿勢こそが求められます。それにはやはりソーシャルワーカー自身の心身の安定が、何よりも大事になると思います。ソーシャルワーカーが安定していれば、全体的にスムーズなかかわりが進行するでしょう。それはCLにとっても安心感が持てるし、自分の希望や、意向を表明するのを助けてくれる姿勢と写るはずです。

そこで、大事になるのは、SWが自分の援助実践に対して特定の支援者としてのSVRの存在です。ただし、何でも相談できる相手がいればいいかというと、時にはきわめて依



講演後のディスカッション

存的な姿勢になってしまい、事毎に指示を仰ぐことになりかねないという危うさもあります。スーパービジョン体制がなく、SWが迷ったとき、あるいは先が読めず、不安なときなどは、主治医や上司に聞くより、皮肉に聞こえるかもしれませんが、むしろCL自身に聞くことこそが決め手です。その他、自分のCLとのかかわりについて、同僚に話すのもいい。まさにピア・

スーパービジョンですね。守秘義務については厳守しなければならないのは言うまでもないことです。街の食堂で、あるいは酒席でクライアントの話をするのは厳禁です。

協働とソーシャルワーカーの自己開示

「協働」というソーシャルワーク実践の方法があります。SWが不明な点をCL自身に聞きながら相談を受ける姿勢は、CLに「人格の尊重」と「自分の謙虚さ」を態度で示すこととなり、よいかかわりを持つことができるというものでありましょう。協働という用語はSWとCLとのかかわりに限定して使います。当事者もソーシャルワーカーも互いに主体的な存在ですから、協働とは相互主体的な関係そのものであると言えます。そういう両者の関係があってはじめて、相手は自由な自己を自覚し、意思決定可能な当事者となっていくことができるのではないのでしょうか。もはや誰も自分を拘束しない。そのように動機付けが自己のうちに出来て、それが動因となって、「かかわり」は、クライアントにとってよい「話し薬」となるのであります。

協働はクライアントの課題を共有しようとするSW独特の方向性であり、行動上の価値の具体的な表現です。SWはクライアントの話を聞きっぱなしにしません。また一方的に指導するのではなく、課題をクライアントと共有する立ち位置にいることを意識しながら、自分のなかでの気づきや思いを相手に伝えようとします。これを「自己開示」と言います。「ちょっと腑に落ちない」「CLは何かある話題に触れたくないようだ」、といった気持ちが自分の中にフツボいてくることがあります。そういうときに、それを率直に相手に伝えて、胸襟を開こうとすれば、相手CLは安心し、「初めて自分の話をまともに聴いてくれる人に出会った」といった感情的な経験を覚えるのです。SWには、このように率直さが求められます。これはSWが専門職者として行使する「自由」という価値なのです。これはSWの姿勢・態度の問題としてSVにおける重要な課題になると思います。

ちなみに他の職種との協力関係は協働という言葉より、むしろ連携といったほうが適切です。連携という機能は、協働というSW-CL関係という中心軸があって始めて有効になるのです。また今触れたように、SWには専門職者としての自由があります。恣意的という意味での自由ではないことは言わずもがなで、それは根拠のある自由であり、しばしば裁量権という形で、SWに付与されるもののなのです。この自由裁量権は、SWがCLを一人の人格として尊重し、かかわりの中で、相手の気持ちをきちんと受け止め、「ここで、今（here and now）」彼が願う希望の実現に向かって協働しようとする企てが、クライアントにとって至当なことであると信じ、渾身の力を込めてCLに寄り添うことなのであります。

今後のご健闘を心からお祈りします。



卒業生の司会により懇親会が進められた

スーパーバイザーの立場から

田村 綾子

聖学院大学人間福祉学部非常勤講師

日本精神保健福祉士協会常務理事・研修センター所長



田村綾子講師

2009.10.10
聖学院ピア・スーパービジョン

スーパービジョンの魅力
～スーパーバイザーの立場から～

精神保健福祉士・社会福祉士 田村綾子

自己紹介

▶ 神奈川県出身。3人姉妹の長女。
▶ 明治学院大学社会福祉学科を卒業し、神奈川県秦野市の「医療法人丹沢病院」にPSWとして就職。
～新人の頃、大学の先輩（助川さん）に、とてもお世話になりました。「いつか後輩に恩返しを・・・」と思ったものです。
～PSW協会の全国大会で柏木先生の講演を聞いて感動！「私の目指す道」を見つけた気がしました。
その後、機関誌の座談会で、一緒にできたことも感激でした。
～PSW協会の研修会に講師として呼ばれ、親切な担当者（相川さん）との出会い。「優しさと癒し」のある人だなあと仲良しに。
▶ 3年前に丹沢病院を退職し、現在は社団法人日本精神保健福祉士協会に就職。同時に、聖学院大学の非常勤講師として、精神科リハビリテーション学を担当しています。
こうしたさまざまな【縁】に導かれて、今日に至ります。

スーパービジョンとの出会い

▶ 新人時代の苦難
～どうしたら良いか、誰も教えてくれない？
▶ 職場（精神科医療機関）での、多数の後輩との出会いと
かわり
～みんなせっかく就職したんだから・・・
▶ 実習生の受け入れ
～国家資格になった、甘いことは言ってられない！
そして、現在の職場（社団法人日本精神保健福祉士協会）
で・・・

スーパービジョンの実際
～スーパービジョンセンターとの連携の中で～

I. 契約に至るまで

- ▶ 申し込みから紹介まで
- ▶ 出会い～目的と相性を確かめる
- ▶ 契約～実施方法を話し合う

II. 実施方法

- ▶ 形態～期間と時間を決める
- ▶ 倫理的配慮
- ▶ 契約の解除について

※費用はセンターの取り決めに従う
↑ これは結構「ありがたい」

実際のSV場面を覗いてみましょう

- ▶ 現在は個室を確保できていますが、かつてはファミレスの片隅やわが家に来ていただいたことも・・・
- ▶ スーパーバイザー（＝SVE）は毎回A4用紙に1枚程度でレポートをまとめてきます。
- ▶ それを元に「今日話したいこと」をSVEが語ります。
- ▶ 一通り聞き終わると、スーパーバイザー（＝SVR）から確認のためにいくつか質問をします。



ある日のスーパービジョン



- ▶ SVEは、デイケアのPSWをしています。
- ▶ 利用者であるAさんと、1～2週間に1度、もう3年間面接をしています。その内容についてSVEは「どうもうまくいっていない」と感じているそうです。
- ▶ 「Aさんは就職を希望しています。面接ではいつもその話になります。ただ、Aさんの“不安や焦り”に対して、プログラム作成や具体的な提案は行ってききましたが、話をじっくり“聴く”ことがあまりできていないのではないかと感じています。」
- ▶ 「PSWとしてAさんの思いを最大限に尊重すべきだと思います。でも、Aさんの考えが“腑に落ちない”と感じたときにうまく伝えられずに、ただしゃべり過ぎたり指摘になったりして、後で反省しています。」

ある日のスーパービジョン



- ▶ 面接の中で話し合っているのはどのようなこと？
- ▶ 面接の様子を詳しく聞かせてください
- ▶ Aさんて、どんな方ですか？
- ▶ Aさんのこと、好きですか？
- ▶ 面接の最中に、どんな気持ちでいる？

等など、SVRは聞きたいことを尋ねたり感想を言ったりします。
SVEはひとつずつ考え考え、応じていただきます。

Key Word：「質問されて、今思ったんですけど・・・」

⇒解説してあげなくちゃ、教えたり方針を決めて提案しなくちゃ、と思っているのかな？

「これだけ真剣に考えてもらえて、Aさんは幸せですね。」

スーパービジョンで得られるもの ～SVEの立場から～

- ▶ 「これで良いのか？」という不安に対して
⇒失敗ではないかも・・・と確認することができる。
- ▶ 「自分には無理だ」と思うことに対して
⇒まだやれることがありそうだ！と思える。
- ▶ 「何もできていない」という自信喪失に対して
⇒ああ。自分も頑張っていたなあ☆と感動する。

※とりあえず、自分を褒めてねぎらうことができる。
⇒行き詰っていた利用者さんとの関係に、新たな輝きを感じる。



スーパービジョンで得られるもの ～SVRの立場から～

- ▶ ワクワク （今日はどんなことが語られるのかな？）
- ▶ ドキドキ （私が何かしてあげられるかしら・・・）
- ▶ う～ん （困った、どうしよう）
- ▶ なるほどねえ～（こんな悩みもあるんだなあ）
- ▶ ・・・（私も若い時は、もっと一生懸命だったなあ）(?)
- ▶ ジ～ン・・・「感動！！！」
（頼もしいぞ！）
（後輩も頑張ってる、私もがんばらなくちゃ！）



さあ、あなたも！

- ▶ ソーシャルワーカーであり続けるために。
- ▶ 先輩や仲間を作り、語り合しましょう。
- ▶ いずれは、後輩へのお返しもしたいですね。

社団法人日本精神保健福祉士協会主催
【ソーシャルワーク研修2009】
～11月14日・15日 浜松町駅徒歩5分～

1. 認知症疾患の方への支援
2. アルコールなど依存症の方への支援
3. 自殺予防のための支援
4. ソーシャルワーカーの能力

<http://www.japsw.or.jp/usoki/kensyu/2009/sw1.html>



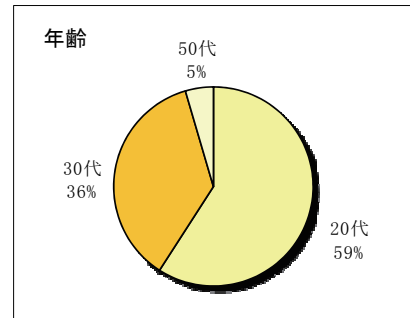
田村綾子講師による講演

実施日 2009年10月10日

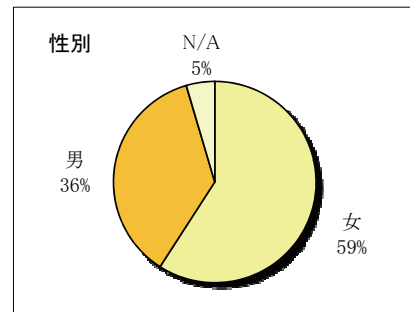
ピア・スーパービジョン アンケート結果

1. あなたのプロフィール

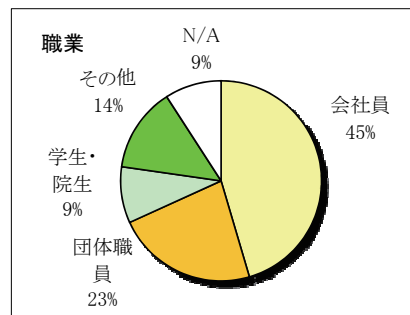
(1) 年齢	人	%
20代	13	59.1
30代	8	36.4
50代	1	4.5



(2) 性別	人	%
女	13	59.1
男	8	36.4
N/A	1	4.5

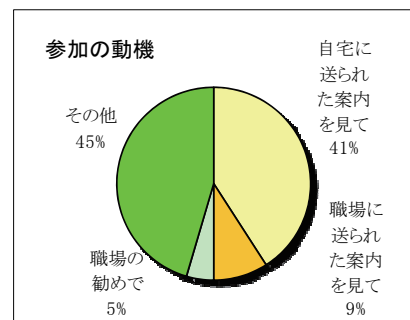


(3) 職業	人	%
会社員	10	45.5
団体職員	5	22.7
学生・院生	2	9.1
その他	3	13.6
N/A	2	9.1



2. 参加の動機

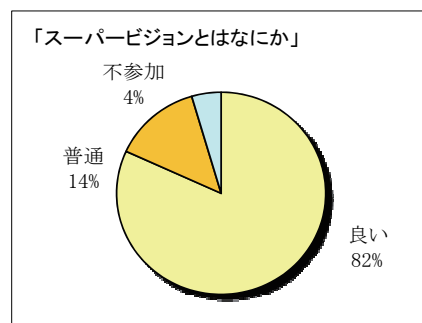
	人	%
自宅に送られた案内を見て	9	40.9
職場に送られた案内を見て	2	9.1
職場の勧めで	1	4.5
その他	10	45.5



「その他」は、「友人の勧め」「先生の勧め」
「SWnetとして活動しているので」
「いつも参加しているので」

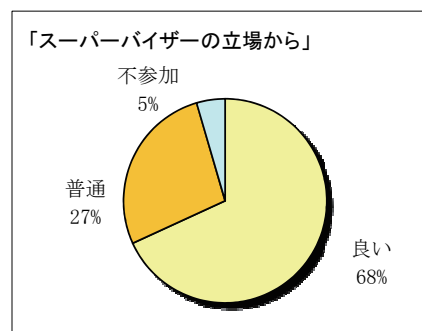
3. 講演「スーパービジョンとはなにか」

	人	%
良い	18	81.8
普通	3	13.6
良くない	0	0.0
不参加	1	4.5



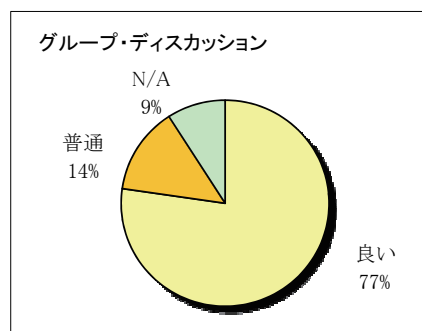
4. 講演「スーパーバイザーの立場から」

	人	%
良い	15	68.5
普通	6	27.0
良くない	0	0.0
不参加	1	4.5



5. グループ・ディスカッション

	人	%
良い	17	77.3
普通	3	13.6
良くない	0	0.0
N/A	2	9.1



実践理論を学び、経験年数、職種の違いを越えて情報を共有し、交流をもった

6. 自由意見

- ・ 日頃の臆をみんなで出すことができてとても良かった。今日は人間関係の話しであつたけれど、各々職場は異なるけれど、みんな同じように大変な思いを抱えていて、「みんなつらい、大変」と、共に分かち合うことができた。それだけでも貴重な時間ではないかと思う。ありがとうございました！いつもいろんな人に会えてうれしいです。
- ・ 職場での人間関係がメインの話になりました。共感できる話し合いができたことが良く、こういった場に参加させていただいたことにより、心に「ゆとり」ができそうな気持ちになりました。
- ・ ディスカッション・グループで貴重な意見を聞かせていただけて参考になりました。
- ・ グループ・ディスカッションの時間が短いのが残念でした。C組が4人しかいなかったのはなぜでしょう。
- ・ 経験年数が一番少ないA組だったからか、グループ・ディスカッションの話し始めに時間がかかった。「テーマは特にない」と司会の方がお話しされて、自由に話せると思いましたが、少し（ひとつでも）題材を与えていただけると助かりました。しかし、ためになったのは、次回このようなグループ・ディスカッションがあつたときは、今回参加した動機や、先生方の講義を聞いて思ったこと等をまず聞けると良いかもしれないということです。今回参加して、先生のお話や参加者の方々の話を聞き、今自分が悩んでいるケースや自分自身のことを客観的に見ることができ、気持ちが楽になったのと同時に、来週から始まる仕事も新たな気持ちで取り組める思いです。貴重な体験をありがとうございました。
- ・ 田村講師のお話は自分自身の振り返りにつながって、明日からの仕事の力になります。ありがとうございました。
- ・ 講演を伺って日頃の仕事をあらためて考えさせられたり、SWとしての役割を整理していただいた感じです。ありがとうございました。
- ・ 今は福祉の現場からは離れてしまったが、すごく考えること・考えさせられることがあり、刺激になった。自分が何をしたかったのかなど、もう一度確かめることができた。また参加したい。
- ・ 離職中ということで、参加を迷いましたが、来て良かったと思います。去年は体調不良で参加できませんでしたが、参加すれば良かったと思っています。スタッフの皆様ありがとうございます。
- ・ 様々な立場の人の意見が聞けて良かった。みな大変な思いをしながらがんばっているのを見て元気が出ました。
- ・ いろいろとお話しができたのが良かったと思います。また参加したいです。
- ・ いろいろな現場の話を聞けたので、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 他職種の人、年代の異なる人と出会え、話し合えることに感謝します。先生方、ご協力いただきありがとうございます。
- ・ いろいろな話が聞けました。
- ・ お忙しい中、スタッフの皆様、先生方、どうもありがとうございました。またこういう機会があればぜひ参加したいです。ありがとうございました。

3) その他の事業

- ・ スーパービジョンセンター案内リーフレット増刷
- ・ 埼玉県内の福祉・保健施設、保健センター等へリーフレット送付
- ・ 埼玉県内の福祉・保健施設、保健センター等、および聖学院大学人間福祉学科卒業生、資料請求者等へピア・スーパービジョンの案内送付

4) 今後の課題

- ・ S V C の事業についての卒業生や関係者への広報の拡大
- ・ 「出張グループ・スーパービジョン」の位置づけと事業化（年度内に複数の関係団体からの要請があったが、今年度は要請を受けた教員による別途対応とした）
- ・ ピア・スーパービジョン活動の拡充支援
- ・ 新年度の担当者の確保（柏木昭、廣江仁 両氏の後任など）？
- ・ 料金の見直し？

3 2009 年度予算

【収入】

項目	細目	単価	人数	回数	金額	備考
受講料	グループ・スーパービジョン	3,000	5	10	150,000	1G10人×10回
受講料	グループ・スーパービジョン(卒業生)	1,000	5	10	50,000	
受講料	個別スーパービジョン	6,000	5	10	300,000	(08年度継続2名)
受講料	個別スーパービジョン(卒業生)	2,000	5	10	100,000	(08年度継続2名)
受講料	スーパーバイザー支援制度	8,000	2	10	160,000	
合 計					760,000	

【支出】

項目	細目	単価	人数	回数	金額	備考
講師代	グループ・スーパービジョン	10,000	1	10	100,000	1回2時間10人×10回
講師代	個別スーパービジョン	10,000	10	10	1,000,000	1回2時間
講師代	スーパーバイザー支援制度	10,000	2	10	200,000	1回2時間
研修代	ピア・スーパービジョン講師代	20,000	1	2	40,000	年2回開催
研修代	ピア・スーパービジョン交流会代	20,000	1	2	40,000	年2回開催
研修代	ピア・スーパービジョン会場代	20,000	1	2	40,000	年2回開催
印刷製本	報告書作成	150,000	1	1	150,000	年1回発行
広報	パンフレット作成	100,000	1	1	100,000	増刷
広報	通信費	80	900	2	144,000	卒業生他へ郵送
合 計					1,814,000	

大学より補助

1,054,000

4 決算(2010年3月1日現在)

【収入】

項目	収入額	内 容
受講料	128,000	グループ、個別、支援制度

【支出】

項目	支出額	内 容
報酬委託	422,222	スーパーバイザー謝礼、ピア・スーパービジョン講師謝礼
集会費	14,070	用紙、ピア・スーパービジョン飲物、軽食
印刷費	93,914	リーフレット増刷、
賃借料	5,628	ピア・スーパービジョン会場費
通信費	211,600	リーフレット発送、ピア・スーパービジョン案内発送
計	747,434	

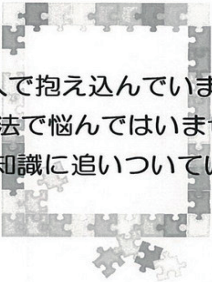
5 資料

ピア・スーパービジョンの案内

(表)

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター
SWnet(聖学院ウエルフェアネット—卒業生を中心とするネットワーク)共催

ピア・スーパービジョン開催のご案内



現場で一人で抱え込んでいませんか？
支援の方法で悩んでいませんか？
新しい制度や知識に追いついていませんか？

保健・社会福祉現場で対人援助を行っている人たちの「語り合い・振り返り・
支え合いの場」、それがピア・スーパービジョンです。同じ悩みや課題を持つ
者同士が語り合い、クライアントとのかかわりを振り返り、日々の業務を見直
します。職場を越えたつながりを作り、情報交換をしましょう。

日 時：2009年10月10日(土)
13:30～17:00 (受付開始 13:00～)

場 所：4号館4階会議室

対 象：福祉現場で働いている方、福祉現場を応援したい方
卒業生以外の方も参加できますのでお友達をお誘いください。

参加費：無 料

ープログラムー


13:30～14:15 講演1 「スーパービジョンとはなにか」
柏木昭 聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授

14:15～15:00 講演2 「スーパーバイザーの立場から」 田村綾子
社団法人日本精神保健福祉士協会常任理事・研修センター長

15:10～16:10 グループ・ディスカッション

16:20～17:00 懇親会・報告(飲物の用意をいたします)

17:00～ 二次会(詳細未定・参加希望者は会費別途)



(裏)

参加申し込み方法

1. メールで申し込む 下欄の参加申込書の内容をメールに記入してお申し込みください。
送信先: seigwelfarenet@yahoo.co.jp
2. ファクシミリで申し込む 下欄の参加申込書に記入し、このまま送信してください。
送信先: 048-781-0421 聖学院大学総合研究所・大学院事務課

2009年10月10日(土) ピア・スーパービジョンに参加します。

ふりがな
お名前

卒業生のみ
(学籍番号)

ご住所 〒

電話番号

E-mail address

勤務先



個人情報保護法に基づき、聖学院大学主催の催事・講座の案内以外には使用いたしません。

参加者の声

生の声が聞けてよかったです。

前回参加して人の話が聞けたり、
自分の意見が言えて良かったので
また参加しました。

最初は難しいものかな?と思ったが、
ディスカッションはとても楽しかった。

失敗はこわくて振り返りたくない!
と思っていたが、
振り返ってみようと思った。

失敗を失敗と見るのではなく、前向きに
捉えればいいのだと感じた。

—おことわり—

プログラムが多少変更される
場合があります。

聖学院大学ホームページの
情報をご覧ください。

お問い合わせは

聖学院大学総合研究所・
大学院事務課
〒362-8585 上尾市戸崎 1-1
TEL 048-725-5524
または
seigwelfarenet@yahoo.co.jp

2009 年度

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター年次報告書

2010 年 3 月 31 日発行

編 集 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター

発 行 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎 1-1

Tel 048-725-5524 Fax 048-725-0324

E-mail research@seigakuin-univ.ac.jp

印 刷 社団法人やどかりの里 やどかり印刷

〒337-0026 埼玉県さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894

聖学院大学総合研究所

所長／大木英夫
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1
Tel 048-725-5524 Fax 048-781-0421
E-mail address: research@seigakuin-univ.ac.jp

学校法人 聖学院

理事長／大木英夫
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2
Tel 03-3917-8351 Fax 03-3940-3978
http://www.seig.ac.jp E-mail address: pr@seig.ac.jp

聖学院アトランタ国際学校

Seigakuin Atlanta International School
5505 Winters Chapel Road, Atlanta, GA 30360 USA
Tel 1-770-730-0045 Fax 1-770-730-0245
http://www.seig.ac.jp/english/atlanta/

聖学院みどり幼稚園

〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820
Tel 048-622-3864 Fax 048-625-1822

聖学院幼稚園

〒114-8574 東京都北区中里3-13-2
Tel 03-3917-2725 Fax 03-3917-1739

聖学院小学校

〒114-8574 東京都北区中里3-13-1
Tel 03-3917-1555 Fax 03-3917-5560

女子聖学院中学校・高等学校

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2
Tel 03-3917-2277 Fax 03-3917-3680

聖学院中学校・高等学校

〒114-8502 東京都北区中里3-12-1
Tel 03-3917-1121 Fax 03-3917-1123

聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1
Tel 048-781-0925 Fax 048-726-2962

政治経済学部
政治経済学科 コミュニティ政策学科
人文学部
欧米文化学科 日本文化学科
人間福祉学部
児童学科 人間福祉学科

聖学院大学大学院

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1
Tel 048-725-0781 Fax 048-781-0421
アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科
政治政策学研究科
人間福祉学研究科

聖学院国際センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1
Tel 048-725-2801 Fax 048-781-0094
E-mail address: sic@seigakuin-univ.ac.jp